院内感染対策サーベイランス機能強化事業の実施

【資料5】

平成22年度補正予算について

平成22年10月26日閣議決定

院内感染対策サーベイランス機能強化事業の実施　　48,500千円

事業の目的

世界的に多剤耐性菌による院内感染が拡がりを見せ、日本においても多剤耐性菌による院内感染への対応が喫緊の課題となっている。

各医療機関における院内感染対策の徹底のため、院内感染対策サーベイランス事業が実施されているが、参加医療機関から提供された情報を基にした情報提供、機能を強化し各医療機関においてより実効性のある対応がとられるよう支援していくことが必要。

※ WHOは2010年8月各国政府に多剤耐性菌による院内感染対策を重点的に実施するよう警告している。

事業の概要

院内感染対策サーベイランス事業を担う国立感染症研究所の情報提供機能を強化するため、全国の医療機関に提供される薬剤耐性菌の検出状況データの精度の向上を図るとともに、遺伝子配列に注目した解析結果のフィードバックを行う。また、事業の参加医療機関を対象に院内感染の発生状況の分析の高度化を図る。

院内感染対策サーベイランス機能強化事業実施による効果

48,500千円

○ 薬剤耐性菌の解析機能強化　（35,000千円）

【概要】
国立感染症研究所に、薬剤耐性菌等の遺伝子配列に着目した解析が可能な分析機器を導入。

→

【効果】
全国の医療機関から薬剤耐性菌等の検体を収集して解析結果をフィードバックすることにより、当該医療機関の院内感染対策を支援。

○ 集約したデータの精度の向上　（12,000千円）

【概要】
国立感染症研究所に、医療機関から収集した検体データに含まれる誤データの補正等を行うデータクリーニング機器及びデータのバックアップ機器を導入。

→

【効果】
全国の医療機関に提供される薬剤耐性菌の発生状況データの精度が向上。

○ 参加医療機関に対する院内感染発生状況の解析の高度化　（1,500千円）

【概要】
院内感染発生状況の解析の高度化のための新しいプログラムを導入。

→

【効果】
院内感染対策サーベイランス事業に参加する医療機関における薬剤耐性菌の院内拡散を高精度で分かりやすく「見える化」